平成２５年１２月７日（土）

交野古文化同好会

歴史健康ウオーク

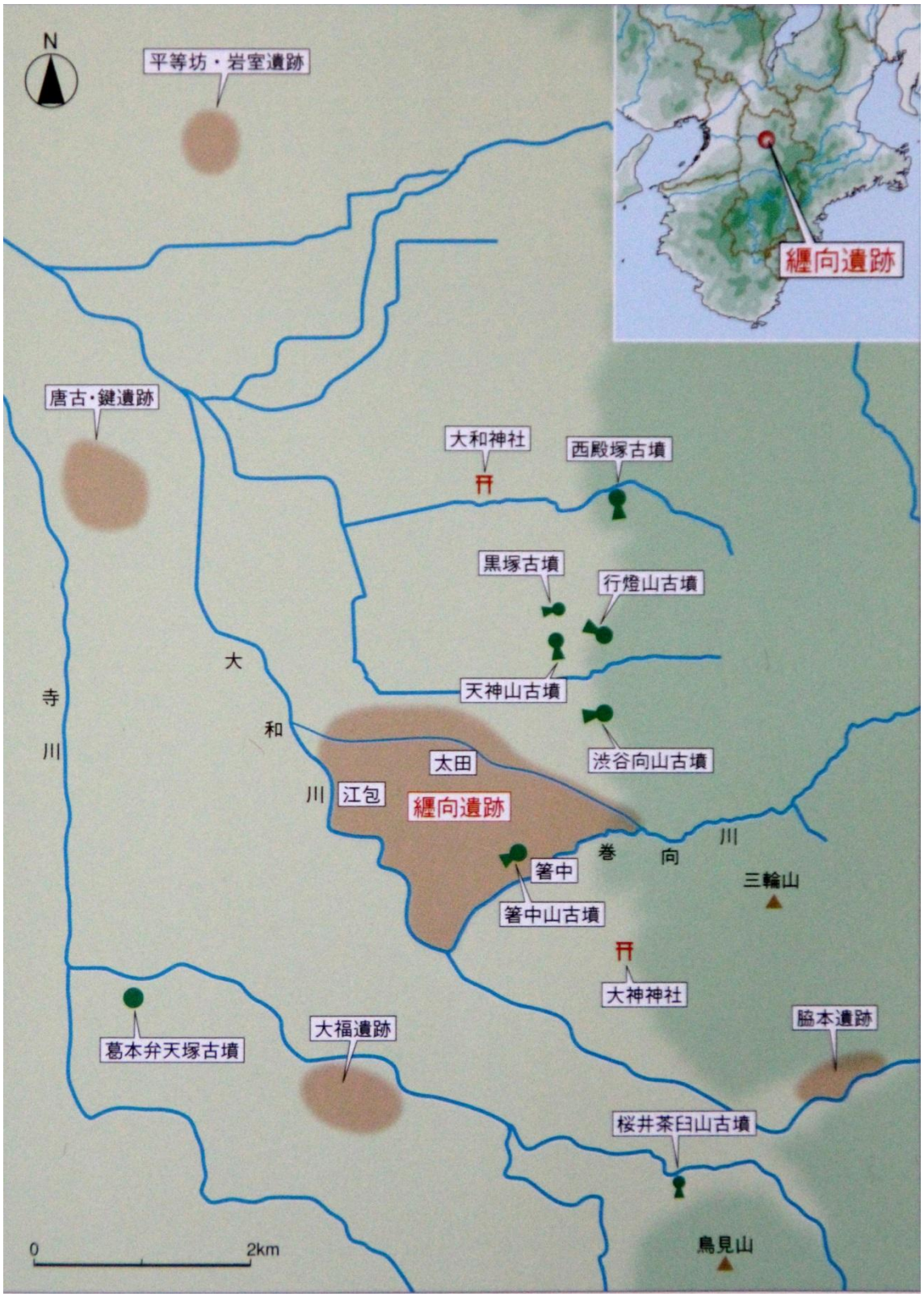
やまと王権発祥の地・纒向を探索

行　　程

ＪＲ万葉まほろば線巻向駅⇒纒向遺跡⇒纒向石塚古墳⇒勝山古墳⇒大塚古墳⇒東田（ひがいだ）古墳⇒三輪そうめん山本（昼食・みやげ）⇒箸墓古墳⇒ホケノ山古墳⇒茅原大塚（ちはらおおつか）古墳⇒狐塚古墳⇒桜井市立埋蔵文化財センター⇒ＪＲ三輪駅

纒向遺跡三世紀の都市　石野博信氏著・纒向遺跡より）

奈良盆地の東南、三輪山の麓から西になだらかな平野が広がり，農地の間に住宅とともに、古墳が点在する。纒向遺跡はこの三輪山から大和川にかけて東西２キロ、南北２キロに広がる一帯をさす。何年にも渡って少しずつおこなわれた発掘調査によって遺跡はその特異な姿をあらわしはじめた。それはのちの藤原京や平城京にも勝るとも劣らない。たとえば、この遺跡から竪穴住居はほとんど見つかっていない。高床式建物が立ち並んでいたようだ。大和川につながる護岸工事の施された大溝や祭祀場もみつかった。またよその地域からきた土器が異常に多く出土している。これらの土器から推定すると、纒向には少なくみても５人に一人はヤマト以外のクニグニからやってきた人々が行き交い、大和川によって遠く外海へとむすばれている・・。この大きな遺跡は、まさに３世紀の都市といえる。そしてそれは、ちょうど邪馬台国の時代に重なる。


N
平等坊・岩室遺跡
纒向遺跡
唐古・鍵遺跡
大和神社
西殿塚古墳
黒塚古墳
行燈山古墳
天神山古墳
渋谷向山古墳
大
和
川
寺
川
太田
江包
纒向遺跡
巻
向
川
箸中
箸中山古墳
三輪山
大神神社
脇本遺跡
大福遺跡
葛本弁天塚古墳
桜井茶臼山古墳
鳥見山
0
2km

N
柳本大塚古墳
渋谷向山古墳
祭場（辻土坑）
銅鐸飾耳・箕・鶏形木製品・
木製高坏・舟形木製品
鍛冶関連遺物
勝山古墳
北溝
井堰
高塚群
特殊器台
弧文板
鍛冶関連遺物
絹小袋
導水施設
韓式系土器・木鏃
祭殿
太田北微高地
矢塚古墳
集水マス
石塚古墳
南溝
ベニバナ花粉
木製仮面
集落
低塚群
弧文石
東田大塚古墳
太田微高地
建築材
（南飛塚古墳）
箸中微高地
ホケノ山古墳
箸中山古墳
輪鐙
三輪山
茅原大塚古墳
0
300m

「平成２１年１１月纏向遺跡発掘調査の現地説明より」（桜井市教育委員会）

今回纏向遺跡から発見された、大型建物を含む方位と軸線を揃えた建物群は「三世紀前半ごろの遺構で、纏向遺跡の中心的な人物がいた居館域」と発表された。三世紀の前半といえば邪馬台国の時代、卑弥呼の住んでいた宮殿遺構かもしれないと大騒ぎとなった。まるで飛鳥時代や奈良時代の宮殿遺構と見まごうてしまう「強い規格性をもって構築された建物群が４００年以上も遡って三世紀に存在したことを示唆するものであった。方位の先に「聖なる山巻向山と斎槻岳（ゆつきがたけ）」がある。

	今回発掘で出土の東端の大型建物（建物Ｄ） 復元規模・南北 19,2m ・東西 12,4m(238 ㎡)。又柱材は総て抜き取りが行われ、柱穴内には残っていませんでしたが残された柱の痕跡からその太さは３２ｃｍのものと推定されます。また南北の主柱穴間のほぼ中央には柱の太さ１５ｃｍの円形柱穴が検出されおり、建物の床を支える束柱の可能性が高いと考えられる。構築の時期は３世紀前半と考えられています。特長として　前回検出建物と東西線を揃えている。方位の先には聖なる山といわれる斎槻岳（ゆつきがたけ）があるその後、この遺跡から「マツリ」に供えたと思われる、モモの種２千個もみつかり、話題になりました。
	建物Ｃ 大型建物Ｄの西側。この建物は東西、西南端の両柱穴が失われている為正確な規模は不明ですが南北の両近接棟持柱が検出されており、３間×２間（南北約８ｍ、東西 5,3m）（42,4 ㎡）の規模を持つものであることが判明しています。構築は３世紀前半が考えられております。交野地方、上ノ山から出た独立棟持柱を持つ大型建物より少し大きい建物(約４０㎡)であり、構築年代は交野地方の建物の方が４００年位古いと思われる。

纏向石塚古墳（三世紀初頭）

発生期の前の、前方後円墳として貴重な遺跡である。全長９３ｍ・後円部６０ｍ（３分の２）、前方部３３ｍ（３分の１）出土品、木製品・孤文円板が年輪年代法測定で１７７年と鑑定される。このことからこの地で一番古いものと思われる。鋤・鍬（木製）。被葬者を葬る段階で木製葬具を用いた葬送儀礼が三世紀初頭に行われていたことが確認される。

勝山古墳（三世紀初頭）（箸墓型）

全長１２０ｍの前方後円墳。墳頂部並びに前方部先端は未調査なので墳丘の正確な形や大きさははっきりしない。特に墳丘北側のクビレ部から白木の材木片に混じって真っ赤に朱が塗られた板切れが出たこと。このことは墳丘の上あるいは墳丘の中にかつてこられの部材を使った構築物があったと考えなければならない。白木だけでなく朱塗の板が用いられていたと考えられるのである。

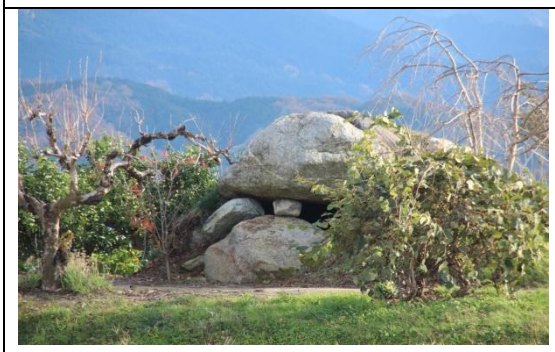
纏向矢塚古墳

推定長９６ｍの前方後方墳。三世紀後半か末頃
円丘部頂には板石が散乱しており、板石積竪穴石室の存在が想定されが、埴輪や葺石は無い。

東田大塚古墳（ひがいだおおつか）

全長１２０ｍ余、円丘部径 70m、突出部長５０ｍ余の箸墓型古墳。円丘部には幅２０ｍの周濠が巡り埴輪や葺石は無く、濠内や排水溝からの出土の土器から築造時期は三世紀後半・末であろうと思われる。

	三輪そうめん山本　そうめんの里三輪-麺ゆう館 そうめんのルーツは奈良時代に渡来した唐菓子（むぎなわ）にさかのぼる。三輪が発祥の地。三輪でとれる小麦が良質であったばかりではなく三輪の水の良さと冬の寒さがそうめん作りに適し、特産品として発達した。 三輪そうめんは細く絹糸のように美しい。（説明書より）
	箸墓古墳（箸中山古墳）卑弥呼の墓？ 全長２８０ｍの前方後円墳で最古の大型古墳である。 現地には孝霊天皇、の皇女・倭迹迹日襲姫命の大市墓と書いてある。箸墓　古墳には周溝は無いと考えられていたが 桜井市教委と橿考研の調査によって、幅１２０ｍの巨大な周濠が確認された。特に注目すべきは周濠各地点から大量の纏向４類（２７０年）の土器がでたことと木製の鐙が出たことである。この頃に馬に乗る人がいることになります。最近国立民族博物館で同古墳出土の二重口縁壺のＣ１４測定で２４０～２６０年の年代がでたと発表され話題になっております。（卑弥呼の死亡年と重なる）
	ホケノ山古墳（箸墓古墳の東約 250m にある） 全長８０ｍ余の前方後円墳、橿考研と桜井教委の調査によって積石木郭が発見され三世紀半ばのヤマトにおける古墳の内容ゆたかな副葬品がはじめて明らかとなった。その構造は幅 2,7m 長さ１７ｍという規模の大きい板囲いがありその中に組合式のＵ字底木棺を納めていたようだ。そして板囲いを納める為の六本の柱とは別に持棟柱風の長軸上の二本のはしら穴が検出された。まさに埋葬施設を蓋うような切妻造りの建物が墳丘のなかに設けられていた。

	茅原大塚古墳　後円部７０ｍ前方部１５ｍ全長８５ｍの帆立貝形の墳丘は良く残っており高さ９ｍの後円部の北側に短く低平な前方部を観察することができる。１９９６年の発掘調査で周溝や葺石が確認され円筒埴輪や朝顔形埴輪などが出土した。古墳時代前期後半以後の大型古墳が築造されない時期の桜井市域の代表的首長墓といえる。
	狐塚古墳（きつねつか） 墳丘は後世に大きく削平されているが、一辺４０ｍ余の方墳と推定される。現在は小高く残る畑地の中に石室が露出している南に開口する両袖式横穴式石室は全長約１７ｍ玄室６ｍと奈良県内でも屈指の規模を有する。１９５８年の調査では玄室内で３基の石棺が確認されている。築造時期は７Ｃ前葉とされる
	桜井市立埋蔵文化財センター 展示室では市内遺跡の発掘調査資料を中心に展示している。常設展示室では桜井の古代、中世の各時代の資料を展示し、ほかにも年間を通じて様々なテーマで特別展、企画展を実施している。又ここでは発掘調査の届出業務、出土遺物の整理や保存処理を行う整理室、金属製品処理室，遺物収蔵室などを備えており、発掘調査で出土した遺物の洗浄、復元、保存処理、報告書作成までの一連の作業を実施している。　（現地資料より）